

シンポジウム

# 複合芸術と生成される「あいだ」

2022年3月19日[土] 14:00-17:00

ゲストはがみちこ

新型コロナウイルスの影響により、開催形態の変更や中止の可能性があります。本企画の開催に関する最新の情報は大学Webサイト(www.akibi.ac.jp)に掲載します。

秋田公立美術大学  
AKITA UNIVERSITY OF ART

# 複合芸術会議 2022

## 複合芸術の幻影 「トランス」の在り方とこれから

秋田市文化創造館 1F コミュニティスペース

展覧会

### 第一回複合芸術研究科博士課程展

2022年3月18日[金]—20日[日] 9:00-18:00

宮本一行、秋田光軌、佐々木樹、藤川史人

主催 秋田公立美術大学  
企画 秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科博士課程  
問合せ 秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科  
E-mail: ICTA2022@akibi.ac.jp  
Tel: 018-888-8105

### 複合芸術研究科とは？

本研究科では、自らの専門領域の外へと果敢に越境し、既存の事物・事象を多角的かつ深層から問い直すことを重視しています。その過程で求められることは、自身の技術や資質を磨くとともに社会へ積極的に介入していくという内的運動と外的運動の往還です。特に博士課程では、より高度な表現と理論、柔軟な発想力と体系的な思索力の複合によって、世界に変革をもたらすような新たな芸術領域を切り開いていくことを目指しています。

### 複合芸術会議について

秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科では、研究科設置初年度(2017年度)より「複合芸術会議」を毎年開催しています。「複合芸術会議」は、本研究科の研究教育の経過と成果を紹介するとともに、創造領域の最前線で活躍されている国内外のゲストを交えて複合芸術の可能性を多様な視座から検討する、公開型のイベントです。今年度は、博士課程学生の研究活動の紹介を通して、創造領域のあらたな地平を探ることに取り組みます。

### 感染症対策について

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来場の際は不織布マスクの着用、会場入り口に設置してあるアルコールでの手指消毒をお願い致します。また、以下のいずれかに該当する方は来場をご遠慮ください。

1. 発熱症状のある方
2. 咳や鼻水など、カゼの諸症状のある方
3. 14日以内に諸外国を含む感染拡大地域への渡航・滞在歴のある方
4. 新型コロナウイルスの感染者および濃厚接触者の方

### アクセス



秋田市文化創造館 1F コミュニティスペース  
秋田県秋田市千秋明徳町3-16

#### 公共交通機関でお越しの方

JR東日本「秋田駅」西口より 徒歩約10分

秋田中央交通路線バス「千秋公園入口」バス停より 徒歩約5分

#### 電車で秋田駅までお越しの方

仙台	: 秋田新幹線 こまち	約2時間15分
新潟	: 羽越本線 特急いなほ	約3時間35分
青森	: 奥羽本線 特急つがる	約2時間45分

#### 飛行機で秋田空港までお越しの方

札幌	: 新千歳空港	約1時間10分
東京	: 東京国際空港 羽田	約1時間
名古屋	: 中部国際空港 セントレア	約1時間10分
大阪	: 大阪国際空港 伊丹	約1時間30分

→秋田空港リムジンバス乗車 約40分、  
「木内前」バス停より 徒歩4分

#### お車でお越しの方

駐車場はありませんので近隣の駐車場をご利用ください。  
車イスご利用の方などはお申し出ください。

秋田公立美術大学大学院  
www.akibi.ac.jp/daigakuin/  
010-1632 秋田県秋田市新屋大川町12-3



各種SNSでも会期に関する情報を  
アップロードしていきますので、こちらもぜひご覧ください。  
@grad.akibi @AkibiGrad akibigrad

複合芸術研究科博士課程展は、秋田公立美術大学大学院博士課程に在籍するアーティストや研究者の活動を通じて、複合芸術の多様な取り組みを紹介する展覧会として、2022年より開催されます。第一回にあたる本展覧会は、個々の主となる領域からのアプローチを通じて、制作・研究に取り組む博士課程学生が主体となって企画しています。

### 宮本 一行 MIYAMOTO Kazuyuki

芸術家・現代音楽家／秋田公立美術大学大学院 博士課程3年

1987年千葉県生まれ、札幌市在住。武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程修了(映像)。身の回りの環境に潜む音や光などの根源的な現象に着目した活動を展開し、作品を通じて人間と環境の相互作用のあり方を探究する。近年では、身体的な行為を用いて特定の環境との対話を試みる作曲技法を実践しながら、新たな音の体験をもたらすインスタレーション作品の制作に取り組んでいる。札幌大谷大学美術学科専任講師。



### 秋田 光軌 AKITA Mitsuki

僧侶・幼稚園職員／秋田公立美術大学大学院 博士課程2年

1985年大阪府生まれ、大阪市在住。2014年、大阪大学大学院文学研究科博士前期課程修了(臨床哲学)。同年に浄土宗教師資格を取得後、2019年まで「葬式をしない寺」應典院に勤務し、現代アートや演劇の場づくりに関わる中で、哲学カフェや念仏ワークショップを企画した。現在はお寺の幼稚園で働きながら、実践と研究の両面で死生への問いを探究している。浄土宗大蓮寺副住職・パドマ幼稚園園長補佐。



### 佐々木 樹 SASAKI Miki

詩人・研究者／秋田公立美術大学大学院 博士課程2年

1992年宮城県生まれ、岐阜県大垣市在住。法政大学社会学部卒業後、日本大学大学院芸術学研究科文芸学専攻修了。社会学的視点を基礎としつつ、写真を活用したビジュアル観察法を用いて、個々人に内在する感情・記憶を探り、それらを想起させる断片を集積することを通して、今日の社会に通底する共通・共異の「詩性」を探る試みをしている。情報科学芸術大学院大学産業文化研究センター研究員。



### 藤川 史人 FUJIKAWA Fumito

映像作家／秋田公立美術大学大学院 博士課程1年

1985年広島生まれ、長野県在住。武蔵野美術大学映像学科卒業。気に入った土地に一定期間暮らしそこで生活する人々と映画制作を行う。監督作に、多良間島の伝統的な結婚式を取り上げた「Caminando muchas Lunas」(‘10)、広島県三次市で地域住民と交流しながら完成させた「いさなとり」(‘15)、アンデスで暮らす人々の記録「Supa Layme」(‘19)、ほか「過日来」(‘12)、「彼の地」(‘15)など。



「複合芸術」(Transdisciplinary Arts)とは異なる専門分野との交わりを通じて自身の専門性を拡張させる「内的運動」と、外部社会に介入してその諸要素の複合を推し進める「外的運動」によって、新たな表現領域や社会的価値を創造していくあり方を指します。現代芸術と呼ばれる表現活動において、これらのことは既に多くのアーティストや研究者によって意識的に取り組まれています。このような状況において私たちは、改めて「複合芸術」とは何かを考えてきました。

博士課程では1年間の合同研究会を通じて、それぞれの研究領域を往還しながら「複合芸術」を明確に専門分化してみることができないものであると捉え直しました。

精神科医の木村敏は、複数のもの同士や領域のあいだ(between)だけではなく、私たち一人ひとりの生を支えている「生命一般の根拠とのつながり」を含む関わりとして垂直的に「あいだ」(betweenness)を捉えます。私たちもまた、「複合芸術」が異なる領域を内的/外的に重ね合わせることに留まらず、その運動の中から垂直的な「あいだ」を生成する営みであると想定しています。

宮本は、身の回りに潜む様々な環境音を一つの総体として捉え直すため、身体性に着目したインスタレーション作品を展開しています。秋田は、仏教を芸術の視点から読み替えることで、「無縁」の世界との回路をひらこうとしています。佐々木は、個々人の視点からつくられた私的・詩的なテキストと写真を集積する調査を通して、社会的世界における私的・詩的な視点の再構成の検討をしています。藤川は、ローカルにおいて映像を通し非人間をも含む他者との関係構築を試みています。

私たちが「あいだ」を探求していく中でそれぞれ捉えてきたものは、“Trans”(超越・越境)だけではなく“Trance”(恍惚・幻影)でもあると考えます。そして、多元化する世界を積極的に横断・越境することで、現実と幻影の境界を漂っているかのような状態を、私たちは〈トランス〉と再定義します。

私たちの生に関わり立ち現れる、さまざまな〈トランス〉を断続的に現前させていくプロセスを通じて、新たな芸術領域を創造していくあり方を提示したいと考えます。

博士課程一同

## 関連イベント

秋田 光軌 デスカフェ「死ぬのはこわい？」

3月20日[日] 10:30-12:00(出入自由) 進行役 秋田 光軌、ゲスト はがみちこ  
ふだん話さない「死」について、ゆっくり対話しながら自分の内側を見つめなおしてみます。他人の意見を打ち負かしたり、全員が合意できる解答が見つかる場ではありません。一人ひとりが主役となって、いっしょに考えましょう。

シンポジウム

## 複合芸術と生成される「あいだ」

〈複合芸術と生成される「あいだ」〉では、同世代の研究者であるアート・メディアーター はがみちこ氏をお招きして、博士課程に在籍する4名の研究報告を行います。総合討論では、本学教員を加えて、「〈トランス〉の在り方とこれから」をテーマに、それぞれの領域の間に生成されつつある新たな芸術領域についてディスカッションします。

メインプログラム ※秋田公立美術大学大学院 教員

3月19日[土] 14:00-17:00

1 複合芸術と生成される「あいだ」について  
——唐澤 太輔 哲学者\*

2 複合芸術会議と複合芸術研究科ならび博士課程について  
——飯倉 宏治 ソフトウェア技術者\*

3 基調講演 インターメディアと荘厳  
——はがみちこ アート・メディアーター

4 研究報告 音と聴取のための芸術実践  
——宮本 一行 博士課程3年

研究報告 ローカル映画から他者を思う ニュー・ガリシア・シネマを足がかりに  
——藤川 史人 博士課程1年

研究報告 詩性探究としてのアートベース・リサーチ(Arts-Based Research)  
——佐々木 樹 博士課程2年

研究報告 「無縁」の実践としての芸術と仏教 浄土宗應典院のアート事例を参照して  
——秋田 光軌 博士課程2年

5 総合討論〈トランス〉の在り方とこれから

——ファシリテーター 石倉 敏明 人類学者\*、コメンテーター 藤 浩志 美術家\*

ゲスト はがみちこ

アート・メディアーター。1985年岡山県生まれ。2011年京都大学大学院修士課程修了(人間・環境学)。『美術手帖』第16回芸術評論募集にて『二人の耕平』における愛が佳作入選。主な企画・コーディネーションとして「THE BOX OF MEMORY-Yukio Fujimoto」(kumagusuku, 2015)、「國府理『水中エンジン』再制作プロジェクト」(2017~)、菅かおる個展「光と海」(長性院、Gallery PARC, 2019)など。京都市立芸術大学芸術資源研究センター非常勤研究員。浄土複合ライティング・スクール講師。



photo by Ai Nakagawa

アフタートーク アンケートご回答のお願い

本企画後、博士課程学生によるアフタートーク動画をオンラインにて公開予定です。その中にて、研究報告の発表やシンポジウムでの討論など対するご意見・ご感想を一部ご紹介する予定です。ご来場された方は是非アンケートの回答にご協力ください。

アンケート受付期間：3月18日[金]—31日[木]

右記QRコードからご回答ください。



藤川 史人 作品上映

3月18日[金] 13:00-14:40、15:00-16:40

3月19日[土] 16:00-17:40

3月20日[日] 13:00-14:40、16:00-17:40

座席は10席常備。状況によって増設いたします。

オープニングトーク

3月18日[金] 16:00-16:30

博士課程4名(宮本・秋田・佐々木・藤川)が、本企画・博士課程・作品について紹介・発表します。予約不要で参加できますので、お気軽にご参加ください。